

栃木市上下水道事業調査委員会(第1回)会議録

開催日時	令和3年11月5日(金) 14:00~16:00
開催場所	キョクトウとちぎ蔵の街楽習館 講義室(4階)
出席委員	児玉博昭委員、湯川晴美委員、大栗利夫委員、増山由美委員 門沢イミ子委員、和久井賢司委員、進上一巳委員、篠崎正美委員 山ノ井一男委員、深津智子委員、小木ナヲ委員、永田武志委員 森戸雅孝委員 (欠席:池澤佐知子委員)
市	市長(公務により委嘱状交付後退席) 上下水道局長 上下水道総務課:課長、経営係長、課長補佐兼経理係長 副主幹兼料金係長、経理係職員 水道建設課:課長、課長補佐兼施設係長、施設係職員 下水道建設課:課長、副主幹兼管理係長
市長あいさつ	あいさつ
委嘱状交付	市長より委嘱状交付
自己紹介	委員及び事務局職員自己紹介
正・副委員長の選出	事務局より正副委員長は互選によって決定することを説明 委員からの提案により事務局(案)にて指名 【委員長】児玉博昭 委員 【副委員長】湯川晴美 委員 <異議なく事務局(案)で承認> 正・副委員長あいさつ
議事概要	
<p>(1) 調査委員会の進め方 上下水道総務課長より資料1、資料2により説明 質疑・意見等特になし</p> <p>(2) 水道事業の概要 水道建設課職員より資料3に基づき説明</p> <p>(委員質疑) 資料の管路耐震適合率についてですが、令和2年度末実績で最終的に19.3%という耐震適合率となっているが、もし地震等があった場合にそれで耐えられるのでしょうか。工事等費用も掛かるため、すぐに対応できないとは思いますが、今後こういった形で進めて行くのかお尋ねしたい。</p>	

(回 答)

平成23年の東日本大震災の時の状況になりますが、直接的な施設、配水管等の被害の発生はありませんでした。ただ、現在の基幹管路含めての耐震化適合率が19.3%という事で、全体の割合とすればかなり低い状況にあります。今後、同規模、それ以上の自然災害も想定されるので、割れやすい塩化ビニル管を割れにくく振動にも耐えられる耐震管へ、布設替えを積極的に実施していく予定です。

(委員質疑)

説明によりますと、市の北部地域と南部地域の水質に違いを感じました。そのため、南部の方の給水施設には様々な浄化施設を設けて浄化しているとの事ですが。合併前については、その地区その地区での対応はわかりますが、合併したので浄水施設等に色々とお金を掛けるより、北部地域で浄水処理した水を南部地域の方へ送水し、南部地域の施設の改修をせず使用をしない計画は、これからはないのですか。

(回 答)

平成27年の時に大きな水害があり、藤岡の浄水場が水没し、水が供給できない状態になりました。その時には災害対策として、大平、岩舟、藤岡地域には災害用の連絡管が接続されており、また、佐野市とも災害協定により連絡管がございますので、そちらから応急的に水を供給し、断水期間を最小限に食い止めたことがありました。そういった緊急時の対応となり、各地域で計画があり、水源のくみ上げる量や配水池のタンクの容量等計画に限りもございますので、ある程度の融通は利かせることはできますが、日常的な地域間での送水となりますと現実的には厳しいと思われれます。

(3) 下水道事業の概要

下水道建設課副主幹兼管理係長より資料4に基づき説明
質疑・意見等特になし

(4) 上下水道事業の経営状況について

上下水道総務課職員より資料5に基づき説明

(委員質疑)

先程の(3)下水道事業の概要と上下水道事業の経営状況については関連があるわけですが、農業集落排水はこれから公共下水道へ接続していくとの説明があったが、接続をすることにより今後施設は使用しないこととなるので、経営状況がそのために良くなるという事でしょうか。

(回 答)

西方と大平の地区について、公共下水道への接続を予定していますが、今の予定では令和10年から順次接続を計画しております。農業集落排水事業の資金の見通しを見ていただくとR10に一気に減っていると思いますが、だいたい1地区あたり年間の維持管理費が500万円から1,000万円ほど削減され、また、処理場施設を更新した場合には、費用が何億と掛かるとおられますので経済効果は接続した方が良くと思います。

(委員質疑)

税金等の未納者がかなりいるらしいですが、上下水道料金の収入状況については、令和2年度末の未収金はどのくらいありますか。

(回 答)

令和2年度の収入調定に対して、99%の収入となっており、収入未済額については約2,000万円でございます。

(委員質疑)

収納方法はだいたい口座振替となりますか。

(回 答)

一番多いのは口座振替となりまして、約75%が口座振替による収納です。

(委員質疑)

減価償却費の計上の仕方について、定率法と定額法とありますけれども、企業会計ではどちらを採用しておりますか。

(回 答)

定額法です。当初10%を残して計算して、最後5%まで償却し、算出しております。

その他

(事務局より)

上下水道総務課長より、会議資料の事前配布について説明。

質疑、意見等なし

(委員より要望)

地域によっては、工事費用等の負担が掛かるため、下水道に接続していない家がある。そういった家が、前回の水害で下水が家の中まで入り被害を受けた。また、下水道に繋いでいない家の汚水が水路に流れ、雨が降らずそこに溜まると臭って仕方がないとの話を聞くこともある。普及率は徐々に良くなっていると思うが、是非こういった事も調査し、普及に努めてもらいたい。